

(電子メール施行)
農技第1508号
平成28年12月13日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

平成28年度病虫害発生予報第7号を発表します。

平成28年度病虫害発生予報 第7号

向こう3か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
春キャベツ	菌核病	平年並	平年並
タマネギ	べと病	やや多	やや多
	白色疫病	平年並	やや少
	細菌性病害	やや多	平年並
春レタス	菌核病	やや多	やや多
	灰色かび病	平年並	やや少
	レタスビッグベイン病	やや多	やや多
野菜等共通 (施設)	ハスモンヨトウ	平年並	平年並

* 気象の概況

近畿地方 3か月予報

(12月から2月までの天候見通し)

平成28年11月25日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。

12月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

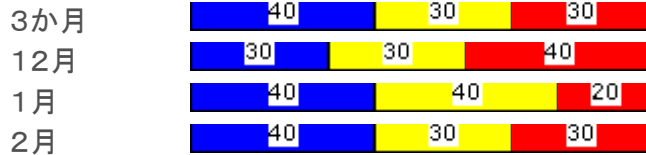
1月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または低い確率ともに40%です。降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。

2月 近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう3か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率(%)>

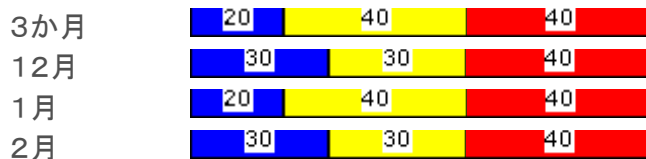
【気温】

[近畿地方]

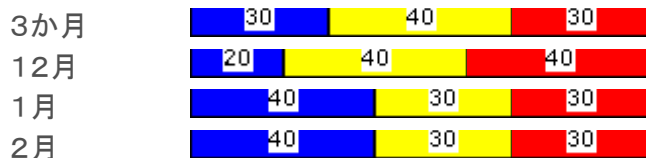


【降水量】

[近畿日本海側]



[近畿太平洋側]



【降雪量】

[近畿日本海側]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■

* 発生概況及び防除対策上の留意点

春キャベツ

1 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

11月下旬の場内ほ場及び現地ほ場での発生ほ場率は16.7%と平年値（11.1%）に比べてやや高かったが、発病株率は0.3%と平年値（1.4%）に比べて低く、全体的に平年並の発生状況であった。

今後3か月の気象予報によると、気温は12月はやや高く、1～2月は平年並、降水量もほぼ平年並と予想されており、今後は現況どおり平年並の発生で推移すると考えられる。

タマネギ

1 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量： やや多
(2) 予報の根拠

11月下旬の淡路地域の苗床調査では発生は認められなかったが、12月上旬の調査で一部地域で発生が認められた（発生苗床率は1.9%）。通常、この時期に発生することは少なく、前年度の多発生により菌密度が高くなっていることが予想される。

今後の天候は、12月の降水量がやや多く、本病の発生に助長的であるため、現況どおり、やや多い発生で推移すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

苗床での発生を認めたら、直ちに抜き取り、薬剤防除を必ず行う。定植後は越年罹病株の発生に注意し、確認したら直ちに抜き取り、ほ場外に持ち出して処分し、伝染源を断つ。本田定植後も定期的に観察するとともに、定植後20～30日頃の薬剤散布を必ず行う。

薬剤防除は兵庫県農薬情報システムを参考にし、農薬使用基準を遵守する。

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

参考：平成28年度病害虫発生予察防除情報第3号、第4号、第5号

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)

2 【白色疫病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

11月下旬の苗床調査では発生は認められなかったが、一部ほ場では発生が認められているがその程度は低い。

今後の気象予報によると、12月の降水量がやや多く、平年並の発生で推移すると考えられる。

3 【細菌性病害】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

11月下旬の苗床調査では剪葉後の苗で発病株率0.03%と、わずかに発生が認められた。今後の気象予報によると、特に発生を抑制する要因はなく、ここ数年多発傾向が続いているため、3月以降の気温の上昇と共に発生はやや多くなると予想される。

- (3) 防除上の留意点

主に腐敗病と軟腐病が発生し、立毛中のみでなく収穫後の貯蔵中にも発生するので、体系的に薬剤防除を行い、健苗育成に努める。

春レタス

1 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

11月下旬の現地ほ場調査では発生ほ場率は20.0%（平年値：13.3%）、発病株率は1.4%（平年値：0.3%）と、やや多い発生であった。今後の気象予報によると、特に発生を抑制する要因はなく、やや多い発生で推移すると考えられる。

- (3) 防除上の留意点

発病株は早期に発見し、菌核ができる前に抜き取ってほ場外に処分する。発病が認められたほ場では健全株への感染が懸念されるので、予防散布を実施する。

2 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

11月下旬の現地ほ場調査では発生認められず、一部のほ場でわずかに発生が認められた。今後は現地においてトンネル被覆が行われるため、発生はやや増加し、平年並の発生で推移すると考えられる。

3 【レタスビッグベイン病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

11月下旬の現地ほ場調査では発生ほ場率は40.0%（平年値：18.3%）、発病株率14.4%（平年値：1.4%）と、発生時期がやや早く、やや多い発生状況であった。

今後、気温が低下する1月～2月の厳寒期にかけて、やや多い発生で推移すると考えられる。

- (3) 防除上の留意点

本病を媒介する菌は主として水媒伝染するため、ほ場の排水を良好に保つ。また、本菌は高pH（pH>6.0）を好むため、土壌pHを下げる肥培管理を行う。

野菜等共通（施設）

1 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠

11月下旬の場内ほ場の調査では露地での発生は認められなかったが、施設内では発生が認められた。フェロモントラップでは11月下旬にも成虫の誘引が認められており、次世代の幼虫が加温ハウス内で発生すると予想される。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)